



ワインの支出

一家計調査（二人以上の世帯）結果より



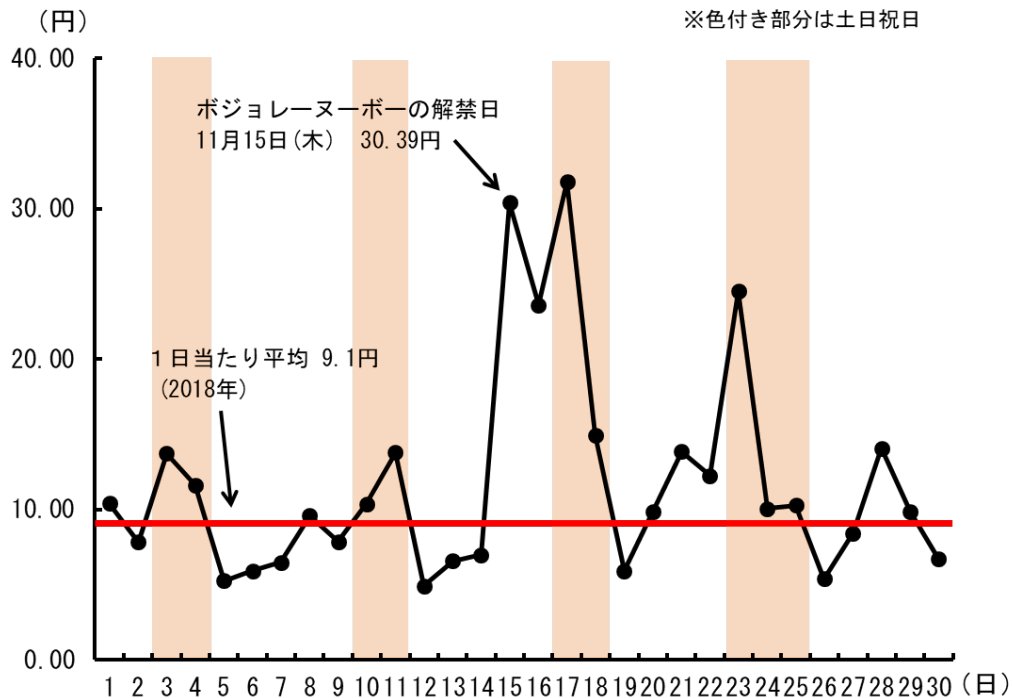
すっかり秋も深まり、実り多いこの季節の味覚を楽しまれている方も多いのではないのでしょうか。毎年この時期になると、報道などで新ワイン（ボジョレーヌーボー[※]）の解禁が話題となります。そこで今回は、ワインの支出について、二人以上の世帯の結果から見てみましょう。

※ ボジョレーヌーボーとは、フランスのボジョレー地区でその年に収穫したぶどうを醸造した新酒ワインのことをいいます。新酒であるため短期熟成となっており、解禁日にはその年のワインを一早く楽しむことができます。

新ワインの解禁日を機に急増するワインの支出

まず、2018年11月の「ワイン」の1世帯当たりの支出金額を日別にみると、2018年のボジョレーヌーボーの解禁日に当たる11月15日（木）に支出金額が30.39円と急増し、その週末の11月17日（土）には31.78円と最も多くなっています。また、17日の支出金額は2018年平均1日当たり（9.1円）に比べ約3.5倍となっており、新ワインの解禁日を機として、休日にワインを楽しんでいると考えられます（図1）。

図1 「ワイン」の1世帯当たり日別支出金額（2018年11月）



「ワイン」の支出は12月に最も多い

次に、2016年～2018年平均における「ワイン」の1世帯当たりの支出金額を月別にみると、クリスマスや年末がある12月が410円と最も多くなっており、次いで新ワインの解禁日がある11月が351円となっています（図2）。

また、「酒類」に占める「ワイン」の1世帯当たりの割合を月別にみると、11月が10.7%と最も高くなっており、寒い季節に割合が高くなる傾向があることが分かります（図3）。

図2 「ワイン」の1世帯当たり
月別支出金額（2016年～2018年平均）

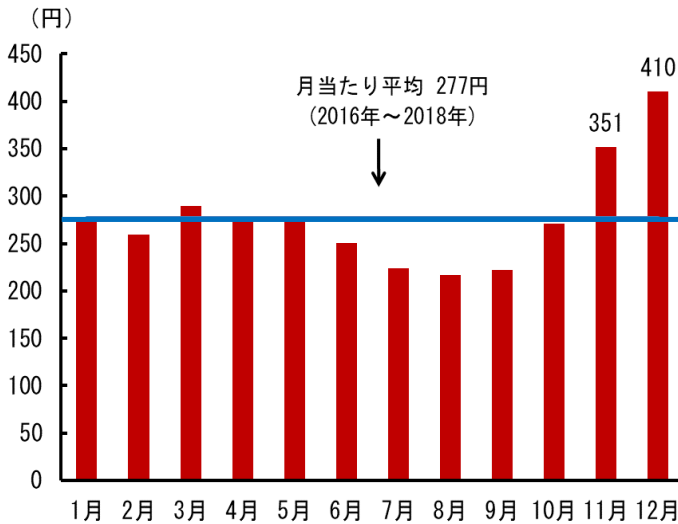
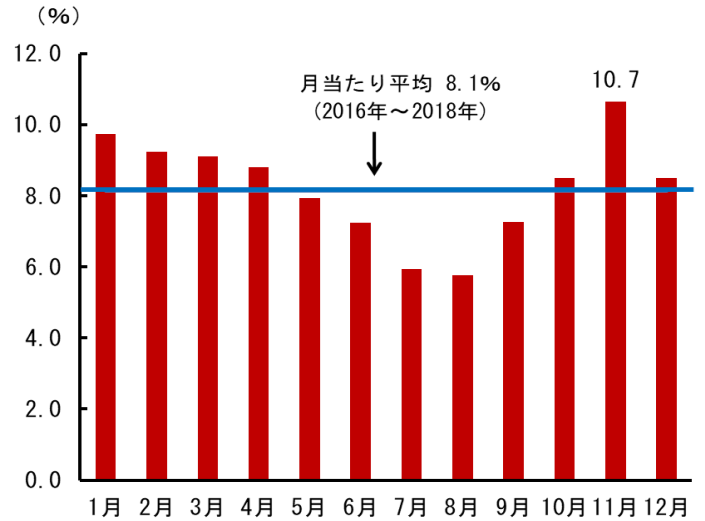


図3 「酒類」に占める「ワイン」の1世帯当たり
月別割合（2016年～2018年平均）



「ワイン」の支出が最も多いのは50～59歳の世帯

最後に、世帯主の年齢階級別に「酒類」の年間支出金額の内訳をみると、「ワイン」は50～59歳の世帯が4,442円と最も多く、この年代より年齢階級が高くなるに従って金額が少なくなっています。年齢階級が高くなるほど支出金額が多くなっている「清酒」や「焼酎」とは傾向が異なります（図4）。

図4 「酒類」の世帯主の年齢階級別1世帯当たり年間支出金額（2018年）

